A-3

〔 スコアアタック・3 〕

▼ Surgeon

Valerie

▼ Data

〔 患　部 〕	大腸
〔 バイタル 〕	99（99）
〔 手術時間 〕	10:00:00

▼ Notes

SCORE ATTACK

患者が4人になったこともあり、多くの術式が必要となる。ハイスコアを狙うには、巨大動脈瘤をうまく処置する必要がある。

◎ 患者のバイタル値と連続執刀クリア目標タイム

◇1人目／大腸／99(99)／残り5:25:00（4分35秒で処置）
◇2人目／肝臓／―(99)／残り4:15:00（1分10秒で処置）
◇3人目／左肺／―(99)／残り1:16:00（2分59秒で処置）
◇4人目／心臓／―(99)／残り0:05:00（1分11秒で処置）

The patient's Life is in your hands

1. 1人目の患者
腹部を消毒して切開（切開→P24）
2. すべての膿を吸引する（膿→P27）
3. 鎮痛剤を虫垂に投与して虫垂間膜を切り離す（虫垂摘出→P34）
4. 虫垂と盲腸の間をワイヤーで2ヵ所を括り、虫垂を摘出する（虫垂摘出→P34）
5. 膿を少量吸引し、炎症（大）を3つ治療（膿→P27　炎症→P29）
6. 膿をまばらに吸引（膿→P27）
7. バイタルを回復（バイタル回復→P23）
8. 6、7を繰り返し、CHAINNを稼ぐ（膿→P27 バイタル回復→P23）
9. 残り時間が6:40:00付近になったら左側の膿をすべて吸引し、虫垂の切除痕を治療する（膿→P27　虫垂摘出→P34）
10. 切除痕の上にある腫瘍を特定して処置し、発生した小腫瘍を治療（腫瘍→P26、小腫瘍→P27）
11. すべての膿を吸引し、右側にある腫瘍×2を特定して処置（膿→P27、腫瘍→P26）
12. バイタルを回復させて、小腫瘍を治療（バイタル回復→P23、小腫瘍→P27）
13. すべての炎症を治療（炎症→P29）
14. 腹部の閉創処置を行なう（閉創→P25）
15. 2人目の患者
腹部を消毒して切開（切開→P24）
16. 裂傷×5を縫合（裂傷→P23）
17. 大裂傷の下にある小腫瘍を治療し、最後に大裂傷の処置をする（小腫瘍→P27　大裂傷→P29）

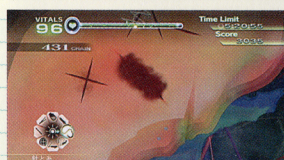
4
膿が虫垂付近に発生した場合は、膿がジャマになって虫垂の処置ができなくなるので、先に吸引しておこう。

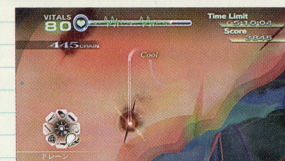
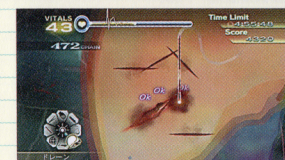
5
次の手順である程度の膿が必要になるので、炎症（大）の付近にある膿のみを治療して、すべては吸引しないこと。

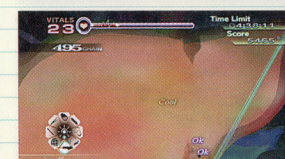
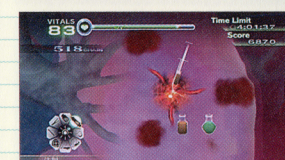
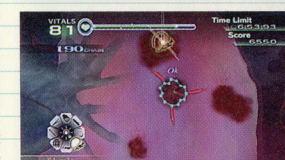
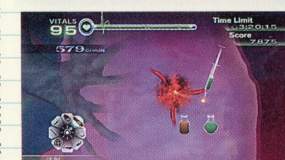
6
すべての膿を吸引してしまうと、膿の再発が遅くなる。時間内に多くの膿を吸引するために、ある程度は残そう。

9
膿の吸引を約3分間行なえば、320CHAINは稼げる。必要な時間を考慮し、ここで時間一杯まで稼ごう。

11
腫瘍の処置中も膿が発生し続ける。発生した膿を優先して吸引しながら、2つの腫瘍をまとめて処置しよう。

13
注射を打つときにミスが起きやすい。大量に炎症があるからといって気を抜かずに、的確に1つ1つ治療すること。

16
術野を移動させなくても上の裂傷は縫合できる。大裂傷の処置を後回しにして　すべての裂傷を縫合しよう。

18. 血溜まりが発生した裂傷を治療（裂傷→P23）
19. 術野を右上に移動させ、裂傷、小腫瘍×4を治療（裂傷→P23、小腫瘍→P27）
20. 術野を左に移動させ、大裂傷の左下にある小腫瘍×4を治療し、最後に大裂傷を処置する（小腫瘍→P27　大裂傷→P29）
21. 術野を下に移動させ、大裂傷、裂傷×5を処置（大裂傷→P29、裂傷→P23）
22. 肝臓下側の小腫瘍×4を治療（小腫瘍→P27）
23. 術野を右上に移動させ、大裂傷、裂傷×2を処置（大裂傷→P29、裂傷→P23）
24. 残っている小腫瘍を治療（小腫瘍→27）
25. 腹部の閉創処置を行なう（閉創→P25）
26. 3人目の患者
胸部を消毒して切開（切開→P24）
27. 右下の巨大動脈瘤の患部を摘出し、人工血管と血管の結合部を縫合する（巨大動脈瘤→P33）
28. 残った巨大動脈痕に収縮剤を少量投与する（巨大動脈瘤→P33）
29. 巨大動脈瘤の周囲に発生する血溜まり×6を吸引し、左上にある腫瘍を特定して処置（血溜まり→P24、腫瘍→P26）
30. 小腫瘍を治療し、巨大動脈瘤に収縮剤を少量投与する（小腫瘍→P27　巨大動脈瘤→P33）
31. 巨大動脈瘤の周囲に発生する血溜まり×3を吸引し、右側にある腫瘍を特定して処置（血溜まり→P24、腫瘍→P26）
32. 小腫瘍、血溜まりを治療し、瘤の大きさに注意しつつバイタルを75以上に回復（小腫瘍→P27　血溜まり→P24、バイタル回復→P23）
33. 巨大動脈瘤に収縮剤を少量投与し、左下の腫瘍を特定して処置（巨大動脈瘤→P33、腫瘍→P26）
34. 小腫瘍を治療し、バイタルを全回復（小腫瘍→P27　バイタル回復→P23）
35. 瘤の調整を行なっていた巨大動脈瘤の患部を摘出し、人工血管と血管の結合部を縫合（巨大動脈瘤→P33）
36. 右上に発生した巨大動脈瘤を摘出し、人工血管と血管の結合部を縫合（巨大動脈瘤→P33）

18
大裂傷を処置すると大量の傷が発生してしまう。まずは画面内にある血溜まりが発生した裂傷を処置しよう。

21
ここまで進むと大裂傷を処置しても傷の再発は起きなくなる。ここからは先に大裂傷から処置を行なおう。

22
肝臓の下側にも数量の小腫瘍が発生している。術野を下まで移動させ、右上の傷を処置するまえに治療しよう。

24
小腫瘍は裂傷の下に2つ、肝臓の右上に3つ発生している。バイタルを回復しつつ、最後の処置を行なおう。

28－1
巨大動脈瘤を処置するか、切開から50秒経過で別の巨大動脈瘤が発生する。時間を遅らせるのが目的だ。

28－2
少量の投与で瘤を調整する処置が難しければ、CHAINは切れるが大量に投与してガイドラインを表示させよう。

34
これ以降、バイタルを回復するタイミングが難しくなる。しっかりとバイタルを全回復させて万全な態勢で臨みたい。